

# 資源管理型漁業推進総合対策事業調査

## 3. 広域回遊資源：日本海ブロック 第Ⅱ期 ムシガレイ (抄 録)

原 子 保

### はじめに

日本海沿岸域に棲息するムシガレイを調査し、生態的特性を明らかにして、管理計画策定のための資料とする。

### 調 査 方 法

#### 1 漁獲統計調査

日本海沿岸主要漁業協同組合から漁獲データを収集し漁協別、月別漁獲金額を集計して近年の漁獲傾向を把握する。

#### 2 市場調査

大戸瀬漁業協同組合に水揚げされた、銘柄「小カレイ」のムシガレイ混入率から、小型魚の漁獲量を推定する。

#### 3 生物測定調査

大戸瀬漁業協同組合に水揚げされたムシガレイを購入し、魚体測定及び年齢査定を行うとともに、秋田県水産振興センターから提供された小型魚についても同様に測定し、年齢構成や性比について比較検討する。

#### 4 標識放流調査

大戸瀬地先沿岸域に回遊してくるムシガレイの回遊移動について把握するため、標識放流を実施する。

### 結 果

#### 1 漁獲統計調査

近年は3～18tの範囲で推移していた。盛漁期は2～5月であった。

それぞれの町村の漁獲量の漁獲比率は、漁獲量の増減に関係なく、ほぼ一定の割合で漁獲されていた。

#### 2 市場調査

小カレイに含まれるムシガレイは、76.6%が雄個体で、年齢は雌雄合わせて4年魚が68.1%を占め

ていた。

### 3 生物測定調査

大戸瀬地先のムシガレイは、3～5年魚が全体の99%以上で2年魚は認められなかった。1月から5月まで及び小カレイの性比は、3月を除き有意差が認められた。

雄個体は1月から5月にかけて平均体重が小型化した~~が~~、増加したのは5年魚であった。

### 4 標識放流調査

5/7から5/14までに計4回587尾を大戸瀬沖6,000～8,400m、水深60～125mの海域へ放流した。放流後2週間以内に大戸瀬及び鱒ヶ沢地先において35尾が再捕され、その後7月に秋田県岩立沖で、9月には尻屋沖で再捕された。

さらに約1年後の1999年5/1には、八戸沖で再捕された個体があった。